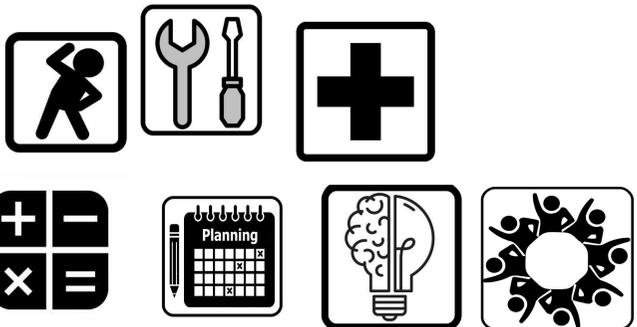
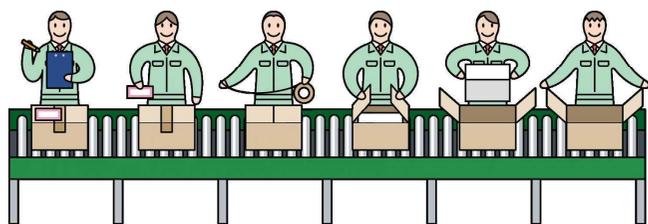


作業学習

指導内容表



大分大学教育学部附属特別支援学校

令和4年度 加筆・見直し・修正版

■指導要素設定の立場■

作業学習は、領域・教科を合わせた指導の形態であり、実際の作業活動を中心に、「注文」「納品」「販売」など、さまざまな活動が仕組める。反面、このような活動の中には、いろいろな内容が含まれているので、あれやこれやと指導してしまい、結果としては何を指導したのかわからなくなることがある。また、指導する教師によって内容のとらえ方が違う場合もあり、系統的な指導ができにくいという反省もある。

そこで、指導の指針として作業学習で、重点的に指導する要素（指導内容）を設定することにした。実際に、『クラフトテープによるトートバック作り』に含まれている内容を見ると、次のようなものがある。

文部省の指導要領に示されている「職業の指導内容」に照らしてみると、「横ひもを編み込み」「底づくり」などの作業は、職業の1段階の[職業生活に必要とされる実践的な知識及び技能を身に付けること]や2段階の[職業生活に必要とされる実践的な知識を深め技能を身に付けること]そのものの内容といえる。また、「縦ひもや横ひもの長さを計る」などは数学科の内容と、「道具の名前」「できあがった時の報告」などは国語科の内容と関連している。その他、注文、納品などの活動にも、「納品書の記入」「売り上げの計算」など、国語や数学と関連した多くの内容が含まれている。これらはすべて、作業学習で指導する内容として考えることができる。このことから考えると、作業学習で扱う全ての内容を指導内容と呼ぶことができる。

しかし、これら国語や算数・数学などの教科の内容を作業学習の中で指導しようとするとき実際の作業活動とずれが生ずる場合がある。そこで、本校ではそれらの教科の内容は教科の時間に指導し、教科で学習した内容を実際の場で生かす場面として作業学習があると考えている。このことから各教科の題材の内容と作業学習がうまく関連付けられねように各教科との年間の題材配列を検討する必要がある。

将来の子どもたちの働く姿を考える時、望まれているのは、“自分から取り組むこと”きちんと作業をすること”はやくたくさん作業をすること“職場の中に明るく溶け込んでいくこと”などである。したがって、前に述べたようなことが“できる”ようになるだけでは、何か大切なものが抜け落ち、指示されて作業するだけの人になりはしないだろうか。私たちのこれまでの実践を振り返る時、ややもすると作業が“できる”ことを優先し、指示を待っている子どもを育てていたのでは、と反省することがある。

『クラフトテープによるトートバック作り』で言えば、“編み込みができる”テープの裁断ができる”ことも大切だが、“自分から裁断の作業をする”“見直ししながら、隙間がないようにきちんと編み込む”ことの方が重要である。また、友達と声をかけ合って協力して作業する” “作業が終わった後、きちんと報告をする”なども大切な生徒の姿である。

このように考えて、具体的な“できる”活動を内容とするよりも、子どもたちに望まれている“作業の意欲や態度”にかかわるものを、作業学習で中心に指導する内容とすることにした。

■指導内容の設定にあたって■

①指導すべき要素について

作業学習で中心にねらっているものは、“作業の意欲や態度”にかかわるものである。そこで、文部省から出されている「指導要領解説」や「作業学習の手引き」などを参考に、次のような観点から、作業学習で中心に指導する内容を整理した。

- 卒業後の生活で、子どもたちに望まれている「自分から作業に取り組む」「きちんとした作業をする」ことなどに必要なものは何か
- どの作業にも共通で、中学部、高等部での6年間の指導で、系統的に発展させて指導していくものは何か

このようにして、まとめたものを「要素」と呼び、次のような7つを作業学習で内容とした。

- 自主・持続性
 - －自分から進んで、作業に取り組み、最後までしてしまうこと
- 確実性－確かできちんとした作業をすること
- 計画性－製品のでき高や作業時間を見通して作業すること
- 安全性－自分やまわりの人の安全を考えて作業すること
- 創造性－自分の作業の仕方をよりよい方向へ変えていくこと
- 経済性－原料や部品、道具や機械を無駄なく使うこと
- 協調性－まわりの人と協力して作業すること

そして、これらを窓口にして、それぞれの要素に含まれる内容を整理し、内容の発展や系統性を検討して作業学習の指導内容表を作成するように考えた。

これは、どんな内容を指導していくかの一つの指標となるものであり、それぞれの題材の目標となるものである。また、上記の7つの要素は、それぞれが独立して並列に存在するのではなく、指導の順位性や関連性があると考えられる。

②要素間の順位性について

7つの要素は、「自主性」⇒「確実性」⇒「計画性」・「経済性」・「創造性」の順番に指導していく。このように考えたのは、次のような考えからである。

生徒の将来を想定した時、福祉的就労の場の作業では、施設の同僚や権導員と一緒に作業していくことになる。この場合、まず要求されるのは、指示されなくても自分から作業に取り組むことである。そこで、子どもが作業に対して自主的であるかどうかをとらえ、「自主性」に問題のある子どもには、この要素から指導して作業に対する意欲を持たせるようにすることが大切だと考えられる。

自主的に作業に取り組むようになると、次に要求されるのは、よい製品ができるように気をつけながら確実に作業することである。需要に耐えるよい製品を作ることは、職業生活を営む上で、対外的な信用にもつながる極めて重要な問題である。そこで、確実性を取り上げて指導していくことが必要となってくる。

その後、利潤の追及ということから考えると、見通しを持って計画的に作業を進めることや短時間ではやく作業できるように工夫することなどの内容も要求されるようになる。したがって、子どもの将来必要となるであろう要素を職場実習などの様子も合わせて、「計画性」・「経済性」・「創造性」の中から、どれを指導していくか考えるようにする。

また、安全に作業を進めること、協力して作業を進めることは、どんな作業をする時にも必要である。このことから、「安全性」「協調性」は、必ず指導していくべき要素として考える。

③要素間の関連について

指導すべき要素に順位性があるからといって、いつもその要素だけを指導するという訳ではない。中心となる1つの要素を指導する中で、必ず他の要素についても配慮しながら指導し、次の段階への芽を育てていくようにする。このように考えたのは、次のような考えからである。

指導すべき要素間には、関連性があるととらえている。例えば、自主的に作業をするためには、作業への興味・関心や成功感・成就感、責任感が大切であるが、作業の仕方を理解することも当然必要である。つまり、作業の仕方を理解し、「確実な作業」の仕方が身につくと、さらに「自主的に作業」をするようになってくる。これは、自主的に作業をしない原因が、作業の仕方が分からないからだのとらえられる場合である。このように自主性と確実性は、関連しており、このような子どもの場合、自主性と確実性の両面からのアプローチが必要となるであろう。

このことは、他の要素間についても同じようなことが言える。それは、要素の背後にある理解力・判断力・成功感・責任感などの「つけない力」が関連しているからである。その、要素と「つけない力」のつながりを示すと、次のようになる。

〈要素ごとのつけない力〉

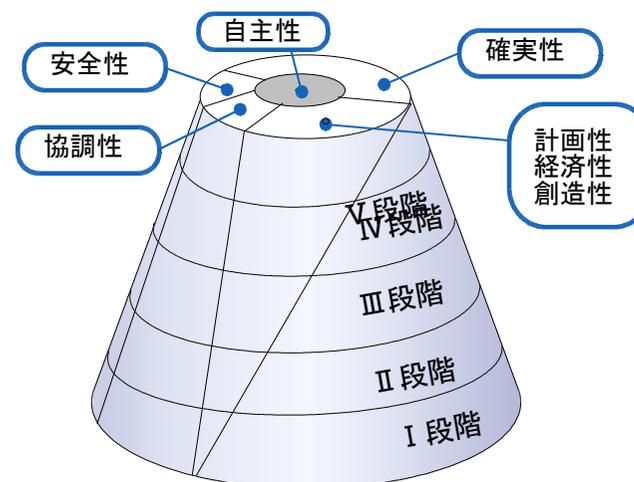
要素	つけない力
自主・持続性	興味・関心、成功感・成就感、責任感
安全性	注意力、理解力、判断力
確実性	模倣力、注意力、理解力、判断力、洞察力、応用力
協調性	注意力、理解力、判断力、洞察力、責任感
計画性	理解力、判断力、洞察力
経済性	理解力、判断力、洞察力
創造性	理解力、判断力、洞察力、応用力

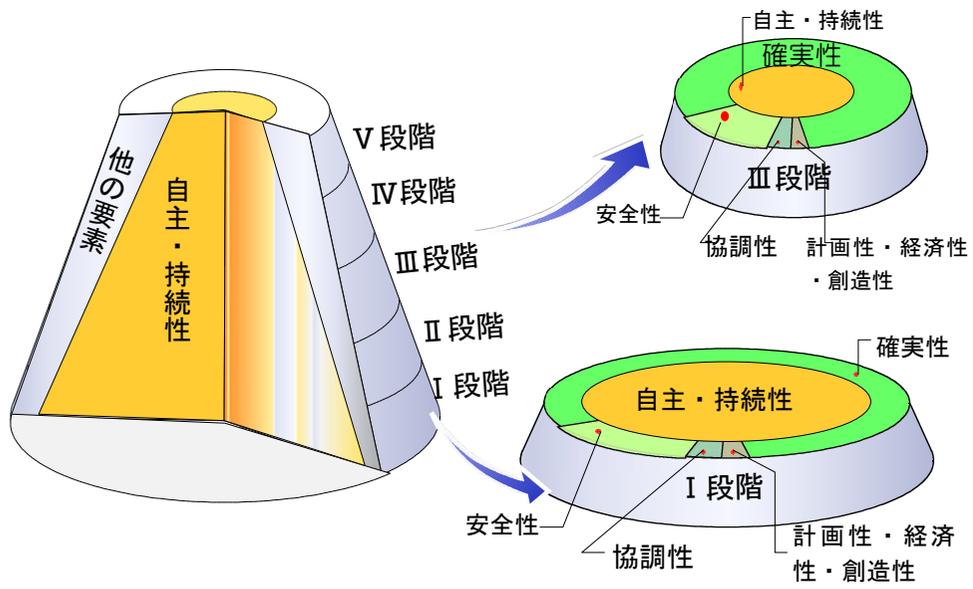
つまり、計画性、経済性、創造性は、確実に作業を進めることができることが前提となるが、確実性を指導している段階で、そのことのみを目をとられていると、“見通しを持った作業をする”などの次の計画性の内容などは入らなくなり、子どもたちの次の段階の目を摘み取ってしまうことにもなりかねない。このような場合は、「早く準備をする仕方も考えて」と、計画的な準備をすることにも配慮するなど、他の要素にかかわる内容を指導したり、課題を与えたりしていく。

このように要素間には、関連性があり、決して一つ一つを切り離して指導していくべきものではない。

以上のようにとらえた順位性、関連性を、図に表すと次のようになる。

〈図1〉 要素の順位性・関連性と指導段階





1. 作業学習の指導要素

(1) 指導要素表

① 自主性の指導要素

【一般的には】

「自主性」とは、一般的には、[他からさしずされたり、他の力を借りたりせずに関自ら進んでやろうとすること]を言う。

【本校作業学習においては】

作業学習を通して育てようとする〈自主的に仕事をする〉生徒は《意欲を持って、自ら仕事に取り組む》生徒である。『自主的に仕事をする』かどうかは、将来の職業生活を営む前提となるものととらえている。周りの人から仕事をするようにと指示を受けたりするようでは、いかなる職業生活においても、自立はおぼつかない。そのため、作業学習においては、勤労を重んずる態度を養うこともねらいの一つとして指導が行われる。

【自主性を身につけた生徒とは】

- ・ 自分から必要な材料や道具を準備し、仕事に取り組むこと
- ・ 決まった数の仕事や与えられた仕事をしてしまうこと
- ・ 仕事が終わったら報告したり、分からないときには、質問したりして、仕事をする事

【自主性を身につけるために必要な力】

作業学習において『自主的に仕事をする』ようになるためには、仕事を成し遂げた喜び(成就感)や製品や仕事が出来た喜び(成功感)を味わったり、仕事に対する興味・関心を持ったりして、仕事の楽しさを知らせていくことが大切になる。さらに、自分が任せられた仕事を最後までしてしまうなどの責任感を持たせたりすることが必要であると考えている。

これらの取り組みは、授業の中で絶えず考慮して行うべきことであり、生徒が仕事に興味を持ち、成就感・成功感を味わったり、責任を持って仕事をしたりするような方法は、一人一人の生徒の実態に即して工夫する必要がある。

また、作り方や作業の仕方の理解不足から確実な作業ができないために、『自主的に仕事をする』姿が見られないことがある。しかし、これは理解力を育て「確実性」を高めることにより解決できるものであろうと考えられる。このように、自主的に仕事をしない原因は何であるかを見極めることが大切であり、他の要素と関連している場合がある。

なお、段階毎に必要な力については、次のように考えている。

段階	必要な力
I	・ 製品や仕事が出来た喜び(成功感)や仕事をした喜び(成就感)
II	・ 渡された数(量)や任された仕事をしてしまった成功感や達成感
III	・ みんなと一緒に作業をする成就感
IV	・ 担当した仕事を最後まで仕上げる責任感

指導要素表を作成する際には、上記のような視点に沿って《どのように自主的な作業を進めるのか》を整理し、『指導要素段階化の視点』に沿って振り分けた。

自主性の指導要素表

	I	II	III	IV	V
準備場面	○作業服に着替えるように誘われて、作業着に着替える ○作業場所に行くことを聞いて、集合場所に集まる	○作業の開始を聞き、作業場所に行く ○担当した仕事を言われて、必要な道具や材料を準備し仕事に取り組む	○時計を見たりして作業の時間になったら、作業場所に行く ○作業場所に行ったら、自分の担当する仕事に必要な道具・材料を準備し作業に取り組む	○時計を見たりして、作業の時間に間に合うように着替え、作業場に行き準備する	—
作業中	○誘われて道具や材料を取りに行き、仕事に取り組む	○渡された数(量)の仕事をしてしまう	○材料が亡くなったら取りに行き、時間が終わるまで、任された仕事をする	○自分に与えられた仕事が終わるまで、必要な材料などを取りに行き、仕事をしてしまう ○自分の仕事が終わったら報告したり、分からないときは、質問したりして仕事をする	—
片付け	○仕事が終わることを聞き、持ち物を持ち戻したり、名札を返したりして退出する	○仕事の終わりを聞き、自分の使った道具や材料を片付ける	○使った道具や材料の片付けが終わったら、自分の作業場所の掃除をする	○使った道具や材料の片付けが終わったら、作業場所全体の掃除をする	—

ア…段階と付けたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	I	II	III	IV	V
ア	興味・関心 成就感・達成感	興味・関心 成就感・達成感	成就感・達成感	責任感	—
イ	自分の範囲			全体の範囲	—

【指導のポイント】

- ・ I 段階～II 段階の生徒には、任せる仕事量(数)を検討し、「できた・終わった」という達成感を持てるようにして取りこませ、徐々に任せる数を増やしていく工夫を。
- ・ III 段階以上の生徒には、作業の流れや工程ごとの部品や半製品のでき具合が視覚的に見えるよう場面設定をして、自分の作業のスピードなどに目を向けられるよう。

② 確実性の指導要素

【一般的には】

「確実」とは、一般的には、[変更、間違い、失敗などのない様子]を言う。

【本校作業学習においては】

作業学習において、確実性を身につけた生徒とは、『一つ一つの作業をきちんとする生徒』であるととらえている。

将来の家庭生活・職業生活を営む上において、「確実に仕事ができる」かどうかは、安全な生活をおくる上でも重要であり、対外的な信用にもつながるきわめて重要な問題であり、生徒の進路先を想定するにおいても、その判断材料として、大きなウェイトを占めるものである。そのため、作業学習で育てようとする要素の中でも、「確実性」は、特に重点をおいて指導すべきものととらえている。

【確実性を身につけた生徒とは】

作業を進める上で“一つ一つの作業をきちんとする”生徒とは、具体的には以下のような視点で考えている。

- ・一連の手順を決まった順番通りに作業をすること
- ・基準となるものに合っているかなどを確かめたり、修正したりしながら作業をすること
- ・製品や作業などのでき具合を確かめたり、修正したりしながら作業すること など

【確実性を身につけるために必要な力】

作業学習において『確実な作業ができる』ようになるためには、生産までの様々な活動に関わる模倣力、注意力、理解力、判断力、洞察力、応用力といった力を身につけることが大切である。また、確実にできるようになると任された作業を責任を持って進めるようになっていくと考えている。

また、段階毎に必要な力については、次のように考えている。

段階	必要な力
I	・作業を進める順番が分かる「理解力」
II	・作業の進み具合を見て、次に移る「判断力」
III	・理解した事実をもとに、決まった仕方や順番で作業を進める「判断力」
IV	・理解した事実をもとに、早く、正確に見直し、修正をして作業を進める「判断力」
V	・できた製品を理解した事実を応用して見直し、作業の仕方のまじった部分を見極める「洞察力」

指導要素表を作成する際には、上記のような視点に沿って《どのように確実な作業を進めるのか》を整理し、『指導要素段階化の視点』に沿って振り分けた。

《段階化の視点》

	I	II	III	IV	V
視点	・指示を聞いて活動する	・一連の作業手順の決まった仕方理解して活動する	・理解した事実をもとに自分で判断して決まった仕方理解して活動する	・理解した事柄をもとに、新しい視点に気づいたり、目を向けたりして活動する ・見直し、修正しながら早く確実に活動する	・理解した事柄を幅広く関連し、総合的に判断、推理応用して活動する ・製品全体との関わりから見直し、修正しながら早く確実に活動する
	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力

確実性の指導要素表

	I	II	III	IV	V
準備場面	○指示を聞いて作業に必要な道具や材料を自分の持ち場に準備する	○必要な道具や材料を自分の持ち場に準備する	○必要な道具や材料を決まった仕方、所定の場所に準備する	○道具や材料を確かめてよい物を選び、決まった仕方、所定の場所に準備する	○分担箇所に応じて必要な道具や材料点検し、よい物を選んで所定の場所に準備する
作業中	○指示を聞いて、決まった仕方、決まった順番で作業をする	○表裏(2面)、上下、順番などに気を付けて決まった仕方、決まった順番で作業をする	○表裏・側面(4面)、上下左右、重さや長さ、順番などに気を付けて決まった仕方、決まった順番で作業をする	○基準に合っているか、製品や半製品がきちんとできているかなどに気を付けて、2～3の視点から見直し、必要に応じて修正して作業をする ○きちんと見直し、修正して作業をする	○製品全体がきちんとできているかなどに気を付けて、いくつかの視点から見直し、必要に応じて修正して作業をする
片付け	○指示を聞いて使った物を決められた場所に片付ける	○使った物を所定の場所に片付ける	○使った道具や材料の片付けが終わったら、自分の作業場所の掃除をする	○使った道具や材料の片付けが終わったら、作業場所全体の掃除をする	○使った道具や機械を点検し、修理して片付ける

ア…段階と付けたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	I	II	III	IV	V
ア	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力
イ	自分の範囲			全体の範囲	

【指導のポイント】

- ・作業の流れから考えると、[準備中]の内容から指導を始めたいが、仕事内容を理解しておかないと、道具などの準備はできない。[作業中]の内容を指導することで身につけていくもの。
- ・確実性の指導は、作業の仕方を教えることではない。これはその種目の職人を育てることではなく、確実な作業をする時の視点を持たせるための学習であるためである。作業のでき具合や製品の良否と自分の作業の仕方を比べながら、基準に合わせることや作業を狩るときに順番などの大切さに目を向けて、作業の仕方を決め、そうする良さを理解することが確実性の指導である。

③安全性の指導要素

【一般的には】

「安全」とは、一般的には、[身体に危険を受けるおそれがないこと、物に損傷や損害を受けるおそれのないこと]を言う。

【本校作業学習においては】

作業学習において、安全性を身につけた生徒とは、『自分や周りの人の安全に気をつけて作業をする生徒』ととらえている。

生徒の就職先や職場実習先では、様々な用具や機械を扱う。また、職場によっては、材料・原料などの中にも、安全に配慮しなければならないものを扱うこともある。そして、それらを用いた大勢の人たちと働く環境にある。

【安全性を身につけた生徒とは】

作業を進める上で“自分や他人、物に傷をつけないように配慮して作業をする”生徒とは、具体的には以下のような視点で考えている。

- ・安全な環境を整えて（整理・整頓・清潔・清掃）作業をする
- ・決められた仕方や手順で作業をする
- ・用具や材料の安全な取り扱いに気を付けて作業をする
- ・自ら危険を負わないように注意して作業をする
- ・周りの人や状況を見て危険を負わせないように注意をはらって作業をする

【安全性を身につけるために必要な力】

作業学習において『安全に作業ができる』ようになるためには、安全な作業の仕方をするための模倣力、理解力、自分の作業の仕方を見直す注意力、理解力、判断力、洞察力といった力を身につけることが大切である。また、安全な作業とは決められた仕方や手順で作業をすることが基本である。

また、段階毎に必要な力については、次のように考えている。

段階	必要な力
I	・安全な作業仕方を知る「模倣力」「理解力」
II	・決まった仕方で行進する「判断力」
III	・理解した事実をもとに、決まった仕方や順番で作業を進める「判断力」
IV	・理解した事実をもとに、安全・衛生に作業を進める「判断力」
V	・作業の進め方や周りの状況などを見極めて安全・衛生に気を付けて作業を進める「洞察力」

指導要素表を作成する際には、上記のような視点に沿って《どのように確実な作業を進めるのか》を整理し、『指導要素段階化の視点』に沿って振り分けた。

《段階化の視点》

	I	II	III	IV	V
視	・指示を聞いて活動する	・一連の作業手順の決まった仕方理解して活動する	・理解したことをもとに自分で判断して決まった仕方活動する	・理解した事柄をもとに、新しい視点に気づいたり、目を向けたりして活動する	・理解した事柄を幅広く関連し、総合的に判断、推理応用して活動する
点	注意力 理解力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力

安全性の指導要素表

	I	II	III	IV	V
計画・準備	○教師と一緒に危険な部分に気をつけて、用具や材料を用意する ○教師の指示を聞いて、作業服に着替える	○教師の指示を聞いて、危険のない持ち方や運び方で、用具や材料を準備する ○教師の指示を聞いて、安全のために必要なものを身につける	○決められた危険のない仕方方で、用具や材料を用意する ○決められた安全のために必要なものを身につける	○危険のない仕方方で、用具や材料機械を用意する ○安全や健康のために必要なものを身につける	○周りの状況や人の動きに気をつけて、安全に道具や材料を準備したり、配置したりする
作業中	○用具や材料の安全な取り扱いの指示に従って、作業をする	○用具や材料の安全な取り扱い方に注意して作業する	○決められた手順や順番に気をつけて、安全に作業をする	○危険のない用具・機械、材料の取り扱い火気・換気の注意をして、作業をする	○周りの状況や人の動きをつけて行動し、安全に作業をする
片付け	○教師と一緒に道具や材料を片付ける	○教師の指示を聞いて、危険のない持ち方や運び方で、用具や材料を片付けたり整理・整頓したりする	○決められた危険のない仕方方で、用具や材料の片付け、整理・整頓をしたり、決められた仕方方で安全のために必要な清掃をしたりする	○危険のない仕方方で、用具や材料の片付け整理・整頓をしたり、安全のために必要な清掃をしたりする	○安全や衛生に気を道具や材料を整理・整頓したり、清掃したりする

ア…段階と付けたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	I	II	III	IV	V
ア	模倣力 理解力 注意力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力	注意力 理解力 判断力 洞察力	注意力 理解力 判断力 洞察力
イ	自分の範囲			全体の範囲	

【指導のポイント】

・安全の基本は4S、5Sの励行である。

- a 整理…いるものといらないものを分け、いらないものは処分する。ことで作業効率があがり、転倒災害の危険も減る。
 - b 整頓…いるものを使いやすく、わかりやすく収納することで、ムダな時間が減り、品質も向上する。
 - c 清潔…汚れを取り除いて身の回りをきれいにすることで、製品の品質向上、食中毒予防、異物混入防止が図られる。
 - d 清掃…機械設備、机回りなどの汚れやゴミを除去することで機械設備の機能維持、転倒災害の危険も減る。
 - e 習慣…決められたことをきちんと守ることを繰り返すことで、意識しなくても自然に安全、衛生な行動ができるようになる。
- a～dは、準備・作業中・片付けの場面でいつも意識して指導するようにする。eに関しては、確実性の指導で作業の仕方を決める場面や、決めた仕方で行進する中で、決めた仕方であると安全に作業ができることを意識させていくようにする。

④協調性の指導要素

【一般的には】

「協調性」とは、性格や意見などが異なる周囲の人たちと譲り合いながら調和できる性質や、利害関係が対立する相手と調整しつつ問題を解決しようとすると言われている。

【本校作業学習においては】

作業学習で「協調性のある生徒」とは、このような職業生活及び家庭生活で複数の入（職場の組織）の中で、周囲の人たちと譲り合いながら作業中のルールや決まりを守って、人に迷惑をかけないで作業を進めたり、作業をスムーズに遂行するために、作業を手伝ったり、協力して作業を進めたりすることとらえている。

【協調性を身につけた生徒とは】

協調性がある生徒とは、他人と助け合いながら円滑に仕事を進めて成果を上げたり、目標を達成したりすることができる生徒である。具体的には以下のような視点で考えている。

- ・周りの人と協力しながら上手く物事を進められること
- ・相手とコミュニケーションをとって周囲の人と良好な人間関係を築けること
- ・自分の考えにこだわらず、相手の気持ちも理解しようとする事

「協調性のある生徒」とは、人に迷惑をかけないで作業を進めることが基本になる。そこで、確実に仕事を進めることが前提であるという考えから、Ⅳ・Ⅴ段階より設定するようにしている。Ⅰ～Ⅲ段階の生徒には、作業の決まりを守って作業に取り組むことや困ったときの対応の仕方を指導しておくことが協調性の指導につながると考えている。

Ⅳ段階	担当した範囲の作業で、自分の仕事の進み具合と友だちの仕事の進み具合や状況を見て自分のする仕事を決める判断力や洞察力
Ⅴ段階	程の作業の進み具合や作業の状況を見て、作業全体がはやく進む仕方を考える判断力や洞察力

《段階化の視点》

	Ⅳ	Ⅴ
視点	○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する ・自分の担当した範囲に必要な作業時間を見通して活動する	○自分の担当した作業の前後や作業の全体の作業の流れの範囲を見通して作業する ・自分の担当した範囲に必要な半製品の量や時間を見通して活動する ・自分の担当した範囲の前後の工程の作業量を見通して活動する ・次の作業時間の作業の仕方を見通して活動する ・次の作業時間に必要な半製品の量を見通して活動する
	判断力 洞察力 責任感 注意力 観察力	判断力 応用力 洞察力 責任感 注意力 観察力

協調性の指導要素表

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
準備・計画				○声をかけられて他の場所の準備を手伝う	○全体の片付け具合を見て、遅れている場所の準備を手伝ったり、友だちに依頼したりして準備する
作業中			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ・作業の決まりを守って作業をする (迷惑にならないように働く) ・困ったときには、周りの人に声をかける </div>	○作業が遅れている作業や一人でできない仕事などを声をかけられて、手伝ったり、友だちに依頼したりして作業をする	○できたものや道具、材料を相手の使いやすいように置いたり、邪魔にならないように周囲の状況したりして、作業する
片付け				○声をかけられて他の場所の片付けを手伝う	○全体の片付け具合を見て、遅れている場所の片付けをしたり、友だちに依頼したりして片づける

ア…段階と付けたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	Ⅳ			Ⅴ		
ア	判断力	洞察力	責任感	判断力	応用力	洞察力
イ	注意力 観察力			注意力 観察力		
	全体の範囲					

【指導のポイント】

- ・協調性の指導は、生徒同士のかかわりの中で生まれてくるものである。教師が介在してしまうと折角の指導場面が失われることになる。教師は状況を伝えるような支援をし、その後の行動は生徒たちに決めさせるようにする。また、困っている状況の生徒には、自分から発信することが大切であるので、教師が先回りしないで様子を見ることも大切である。

⑤計画性の指導要素

【一般的には】

一般的に「計画性」とは、「物事を行うにあたり、その方法や手順などをあらかじめ考えること・プラン」とされている。

【本校作業学習においては】

作業活動を中心に行う作業学習において、「計画性」とは、作業を始めるにあたって、はやく作る・はやくたくさん作るなど時間に目を向けて、作業の仕方を考えたり、分担箇所を考え作業計画を立てたりすることととらえている。将来の職業生活を営む上においても、確実に作業するだけでなく、営利を目的とする事業所などでは、たくさんのはやく作る、決められた時間や納期までに作るなど「計画的に仕事をする」ことは必要であり、確実に仕事を進めることができる子どもには指導すべきものである。

【計画性を身につけた子どもとは】

この「計画性」の具体的な内容は、作業にかかる時間に目を向けさせることから、『準備や作業の計画的に取り組む』、全体の仕事の進み具合から『遅れている分担箇所やたくさん作らなければならない分担箇所を考えて、自分のする仕事を決めて作業する』など、作業を効率よく進めることが考えられる。

そこで、『計画的に仕事をする子ども』とは、具体的には、以下のように考えている。

- ・作業を始める前に、はやくたくさん・できるようにどの分担箇所から始めればよいか考えて作業に取りかかる
- ・作る数など作業量から、必要な材料を準備して取りかかる
- ・作業にかかる時間や手間などから作業する順番を決めて作業をするなど時間に目を向けて効率的に作業を進める子ども

【計画性を身につけさせるために必要な力】

このような「計画性」を育てていくためには、「はやく作る」「たくさん作る」ことや「納期までに仕上げる」こと必要性やそのよさを理解する「理解力」と自分の分担した作業や次の人の作業、あるいは全体の作業の進み具合などを見通す「洞察力」を高めていくことが大切になってくる。これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下のようになる。

「計画性」は、「確実性」の段階と照らして、IV段階・V段階の指導項目を設定している。

IV 段階	自分の担当した範囲の作業で、仕事の進み具合を考える判断力や同じ仕事はどこにあるか見通す洞察力
V 段階	自分と同じ分担箇所の人や前後の工程の作業の進み具合などから、はやく仕事が進む仕方を見通す洞察力

《段階化の視点》

	IV	V
視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する ・自分の担当した範囲に必要な作業時間を見通して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の前後や作業の全体の作業の流れの範囲を見通して作業する ・自分の担当した範囲に必要な半製品の量や時間を見通して活動する ・自分の担当した範囲の前後の工程の作業量を見通して活動する・次の作業時間の作業の仕方を見通して活動する ・次の作業時間に必要な半製品の量を見通して活動する
	判断力 洞察力	判断力 応用力 洞察力

計画性の指導要素表

	IV	V
計画・準備	<ul style="list-style-type: none"> ○準備にかかる時間を見通して同じ方向にある道具や材料をまとめて準備する ○自分の分担した作業で、できた製品や部品の数や作業にかかる時間などを見通して、遅れている作業から始めるなど仕事の順番を決めて作業に取りかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業に必要な時間や原材料・部品の量、人数などを見通して、分担箇所を決める ○自分の分担する作業や、前後の工程の部品の残量や作業する人数などを見通して、遅れている作業から始めるなど自分のする仕事や順番を決めて作業に取りかかる
作業中	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の分担した作業で、できた製品の量や作業にかかる時間などを見通して、取りかかる作業の順番を決めて作業を進める ○自分の分担した作業で、作業にかかる時間や待ち時間などを見通して、取りかかる仕事の順番を決めて作業を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業の流れ全体から、できた部品製品の量や作業にかかる時間などを見通して、友だちと相談をして作業の順番を決めて作業を進める ○作業の流れ全体から、作業にかかる時間や待ち時間などを見通して、友だちと仕事の順番を決めて作業を進める
片付け	○片付けにかかる時間を見通して、同じ方向にある道具や材料をまとめて片付ける	○次の時間の作業準備にかかる時間を見通して、道具や材料の置場を変えたり整理したりして、片付ける

ア…段階とつきたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	IV	V
ア	判断力 洞察力	判断力 応用力 洞察力 推理力
イ	自分の範囲	全体の範囲

【指導のポイント】

- ・指導にあたっては、作業の進め方や仕方ははやくに目を向けて考えさせることになるので、生徒に与える何のために・どれくらい・いつまでという「作業課題」が重要になる。作業課題や納期を設定して指導を行う。また、納期や数も期間ごとに定め、計画的にできたか、できなかったことなどを体験して必要性を持たせることが大切である。
- ・半製品や部品などのでき具合が判断できるようなわかるように場面設定を工夫しておくこと

⑥経済性の指導要素

【一般的には】

一般的に「経済性」とは、「費用や手間のかからないこと、うまく節約すること」とされている。また、単に金銭的なものだけでなく、無駄のない動きや作業者の環境も含めた見直しなど「動作経済」

【本校作業学習においては】

作業活動を中心に行う作業学習において、「経済性」とは、作業を始めるにあたって、原材料を無駄なく使えるように作業の仕方を考えたり、原材料を捨てずに片付けるなど処理を考えたりして作業を進めることをさしている。

将来の職業生活を営む上においても、確実に作業するだけでなく、営利を目的とする事業所などでは、原材料を大切に扱う、原材料などを無駄なく使って作業を進めるなど「経済的に作業を進める」ことは必要になってくる。

【経済性を身につけた生徒とは】

この「経済性」の具体的な内容には、原材料の数や大きさなどと部品や製品の出来高に目を向けさせることから、『原材料を効率的に使う作業の仕方を工夫する』、製品や原材料の性質に目を向けさせることから『製品や原材料の取り扱い方を工夫する』など原材料などを無駄なく効率的に使い作業を進めることが考えられる。

そこで、『経済的に仕事を進める生徒』とは、具体的には、以下のように考えている。

- ・原材料を落としたり、こぼしたりしないようにして、無駄なく使う
 - ・原材料の使える部分を全部使って無駄なく作業する
 - ・部品の種類や材料の大きさから計画を立てて、大きな部品から取ったり、組み合わせて取ったりして材料取りをする
- など無駄なく効率的に作業をする子ども

【経済性を身につけさせるために必要な力】

このような「経済性」を育てていくためには、『無駄なく使う』『一つの材料からたくさんの部品をとる』ことの必要性や『大きな部品から取る』、『端から順番に取る』ことやそのよさを理解する「理解力」と原材料の量や大きさや性質などから材料取りの仕方や原材料の取り扱いを見通す「洞察力」を高めていくことが必要になってくる。

「経済的に仕事を進める」ためには、確実に仕事を進めることができることが前提になる。そこで、「確実性」の段階と照らして、IV段階・V段階に指導項目を設定している。

IV段階	自分の担当した範囲の作業で、自分の作業の仕方を振り返り、材料などの無駄無駄がいかを考慮する理解力と次回の作業に生かす判断力
V段階	自分の担当した範囲の作業で、材料や道具の性質などを理解する理解力と、それを基に自分の作業の仕方を見直す判断力、洞察力、応用力

《段階化の視点》

	IV	V
視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の仕方を振り返り、改善して活動する ・自分の担当した範囲の作業で、できる数や量から、必要な材料を準備して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の仕方や材料や道具の性質から、作業の仕方を振り返り、改善して作業をする ・自分の担当した範囲の作業で見通して必要な物を判断して作業をする ・材料や道具の性質を理解し、性質から保管の仕方や取り扱い方を決めて作業をする
	-----理解力-----判断力-----	-----判断力-----応用力-----洞察力-----

経済性の指導要素表

	IV	V
計画・準備	○その日の作業に必要な量を考えて材料を準備する	○材料や道具の性質から、材料が無駄にならないように量や数を考えて準備をする
作業中	○原材料を無駄のないように使う	○使えるもの、使えないものを整理しながら作業を進める
片付け	○使えるもの、使えないものを分けて片づける	○材料や道具の性質から、劣化しないように片付けや管理の仕方を考えて片づける

ア…段階とつけたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	IV	V
ア	判断力 洞察力	判断力 応用力 洞察力 推理力
イ	自分の範囲	全体の範囲

【指導のポイント】

- ・経済性の指導は、自分の作業を振り返り、材料などの無駄がないかを判断して、次回の作業に向けての改善点を考えさせる、その改善策でした時と前回までの仕方を比べさせていくことが大切である。例えば、接着剤を使って作業をしたときに、接着剤のあまりがあると次回には固まって使えないことから、次回準備する接着剤の量を考える必要性を持たせ、次の作業時の準備段階で考えさせるようにすることになる。このように、作業（授業）の振り返りに時間を設けることが大切になる。

⑦創造性の指導要素

【一般的には】

創造性とは、「新しい何かを考え出すこと・何らかの新しく価値のあるものが作り出される事象」と言われている。

【本校作業学習においては】

作業活動を中心に行う作業学習において、「創造性」とは、何か新しいことに取り組むことではない。「作業がうまく進まない、作業がしにくい」など今している作業の仕方に課題を持ち、それを解決するために、無駄な動きをなくす、作業のしやすさから作業の順番や作業台の配置を工夫して効率的に作業を進めることである。

将来の職業生活を営む上においても、確実に作業するだけでなく、営利を目的とする事業所などでは、たくさんのものはやく作る、決められた時間や納期までに作るなど「効率的に仕事をする」ことは必要であり、確実に仕事を進めることができる子どもには指導すべきものである。

【創造性を身につけた子どもとは】

この「創造性」の具体的な内容は、「作業がうまく進まない、作業がしにくい」などの課題から、『同じ道具を使う作業はまとめるなど効率的な作業の仕方を工夫する』、作業のしやすさなどに目を向け、『道具や材料の配置を工夫して作業を進める』など、作業を効率よく進めることが考えられる。そこで、「創造的に仕事をする子ども」とは、具体的には、以下のよう

- ・作業を始める前に、はやくたくさん・できるようにどの分担箇所から始めればよいか考えて作業に取りかかる
- ・はやくたくさんできるように同じ仕事をまとめてする
- ・はやくたくさんできるように道具や材料を配置する
- ・仕事のしやすさから、机上の配置を工夫する
- ・仕事のしやすさから、無理のない作業姿勢がとれるように踏み台などを準備するなど仕事の仕方に目を向けて効率的に作業を進める子ども

【創造性を身につけさせるために必要な力】

このような「創造性」を育てていくためには、「はやく作る」「たくさん作る」ことや「納期までに仕上げる」こと必要性やそのよさを理解する「理解力」と自分の作業の仕方や全体の作業の進み具合などが効率的にできているかかんがえる「洞察力」を高めていくことが大切になってくる。これらの必要な力を各段階毎に整理すると以下ようになる。

「創造性」は、「確実性」の段階と照らして、Ⅳ段階・Ⅴ段階に指導内容を設定している。

Ⅳ段階	自分の担当した範囲の作業で、仕事の進み具合を考える判断力や同じ仕事がどこにあるか見通す判断力、洞察力 自分と同じ分担箇所の人数や
Ⅴ段階	前後の工程の作業の進み具合や作業のしやすさから、効率的に仕事が進む仕方を見通す洞察力、応用力

《段階化の視点》

	Ⅳ	Ⅴ
視点	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の範囲を見通して活動する ・自分の担当した範囲の作業の仕方を見通して活動する ・自分の担当した範囲で作業の仕方を工夫して活動する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の担当した作業の前後や作業の全体の作業の流れの範囲を見通して作業する ・自分の担当した範囲に必要な半製品の量や時間を見通して活動する ・自分の担当した範囲の前後の工程の作業量を見通して活動する ・作業のしやすさから道具などの配置を工夫して作業を進める
	判断力 洞察力	判断力 応用力 洞察力

創造性の指導要素表

	Ⅳ	Ⅴ
計画・準備	○作業に必要な道具や材料をまとめて準備をする	○運ぶ量や重さなどから、コンテナをや台車を準備するなど効率的に準備をする
作業中	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の分担した作業で、できた製品の量や作業にかかる時間などを見通して、同じ仕事をまとめて作業を進める ○自分の分担した作業で、作業にかかる時間や手間などを見通して、道具や材料をはやくできる配置にして作業を進める ○自分の分担した作業で、作業にかかる時間や待ち時間などを見通して、仕事の順番を決めて作業を進める ○必要なもの、いらないものを整理しながら作業を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業の流れ全体から、できた部品製品の量や作業にかかる時間などを見通して、友だちと相談をして同じ仕事をまとめて作業を進める ○作業の流れ全体から、作業にかかる時間や手間などを見通して、道具や材料をはやくできる配置にして作業を進める ○作業の流れ全体から、作業にかかる時間や待ち時間などを見通して、友だちと仕事の順番を決めて作業を進める ○作業姿勢などから、踏み台を準備するなど作業のしやすい仕方をで作業をする
片付け	○同じもの、同じ場所に置くものなどをまとめて片づける	○次の作業のことを考えて、片付けの仕方を考えて片づける

ア…段階とつけたい力との関連

イ…目を向ける仕事の範囲

	Ⅳ	Ⅴ
ア	判断力 洞察力	判断力 応用力 洞察力 推理力
イ	自分の範囲	全体の範囲

【指導のポイント】

- ・作業のムダをなくし改善を目指すには、作業者の動作にムダがないか、作業者の環境も含めた見直しと改善が必要になります。作業者の環境とは、たとえば、作業を行う場の材料や治具、工具、機械・装置などの置き場所や設置場所、それらの形状、またはその働きなど、作業に関連する物事のことです。創造性の指導は、無駄な動きの改善、作業のしにくさの改善などの工夫の仕方がねらいとなる。